

今週の相場はどうなる？ 今週の相場はどうなる？

作成者：山根亜希子

○10月16日～

パレスチナのガザ地区からイスラム組織ハマスがイスラエルを攻撃したことで、ウクライナだけでなく、中東でも地政学リスクが高まっています。

今のところマーケットには大きな影響は出ていませんが、今後状況が悪化すれば影響が出る可能性もあるためニュースはしっかり見ておきたいです。

下げてきていた原油が先週末は上昇しているため原油価格の動向も重要です。

特に心配されているのは、イランがハマス側について参戦してくるような事態になった場合です。この場合、原油価格に影響が出て、ホルムズ海峡閉鎖などとなればマーケットへの影響は避けられず、中東リスクは日本経済を直撃することになります。

日本は原油の輸入が極端に中東に偏っており、9割以上となっています。

日本はウクライナやロシアとの貿易は、他国に比べて割合が少ないため影響は限定的でした。

ウクライナからの小麦の輸入割合が多いアフリカなどは食糧インフレがすごいことになっています。

米国については、下院議長の選任が難航する可能性もあり、政治リスクが高まればマーケットもリスク回避的な動きが出るかもしれません。

今回の米国のFOMC(連邦公開市場委員会)では、今のところ据え置き予想が多いですが先週発表された消費者物価指数は予想よりやや高かったこともあり、インフレへの懸念はまだ続きそうです。

引き続き、米国の長期金利(米国債10年物利回り)の動きも重要です。

米国の長期金利が上がってくれば米国株などが下げやすくなります。

日本は、介入警戒感はあるものの今のところ大きく円高になる要因が少なく、米国の利上げ期待がなくなるまではドル高トレンドが続きそうです。

欧州は米国に比べて景気が悪く、ユーロ安の動きが出る可能性があります。

● テクニカルで見た重要ポイントは？

<ドル/円>

先週は148-150円程度の高値圏を推移しました。

150円を超えてくると心理的にも買いが続きにくく、高値圏で悪材料が出た場合のリスクを考えると150円超での積極的な買いは危険です。

今後、150円超えが定着してくるような動きにならない限り、150円より上を買っていく戦略は考えにくいということです。

今週の相場はどうなる？ 今週の相場はどうなる？

トレンドはドル高がずっと続いており、テクニカル的にはトレンド転換するまではトレンドフォローで買っていく戦略になります。

できるだけ下がったところを狙っていきたいです。

下値は 148 円台前半を維持している間は、大きな円高リスクはなさそうです。

148円台まで下がるのであれば買っていきたいです。

利益確定は 150 円あたりを目安に数日程度の売買がよさそうです。

ニュース次第で大きく動くリスクを考えて、あまり長い期間ポジションを保有するのは危険です。

高値圏での売買ということを意識しながら、利益確定のチャンスを逃さないようにしたいです。

<気になるクロス円>

ユーロは週足で見ても横ばい状態となっており、停滞した動きが続いています。

これは、ユーロが 7 月中旬以降、ドルに対して下げていることも原因です。

ユーロ／ドルの下落が続くかどうかも見たいです。

オセアニア通貨(豪ドル、NZ ドル)は先週後半から下げています。下げ止まるまで買いは様子見がよさそうです。

クロス円はトレンドがはっきりしないペアが多く、方向がよくわからない場合は、無理にポジションを持たない方が安全かもしれません。

*クロス円とは円との通貨ペアの総称：〇〇／円というような通貨ペアのことです。

<今週のファンダメンタル？>

日本では9月貿易統計、9月全国消費者物価指数などがあります。

米国では 10 月ニューヨーク連銀製造業景気指数、9月月次財政収支、9月小売売上高、9月鉱工業生産、8月対米証券投資、9月住宅着工件数、9月建設許可件数、米地区連銀経済報告(ページブック)、前週分新規失業保険申請件数、10月フィラデルフィア連銀製造業景気指数、9月中古住宅販売件数、パウエル・FRB議長発言などが発表されます。

欧州ではユーロ圏とドイツで10月ZEW景況感調査、ユーロ圏で 9 月消費者物価指数などがあります。

ほかには中国で 7-9 月期 GDP、ニュージーランド、カナダ、英国で消費者物価指数の発表などがあります。